

紫の季節

秋から冬に成る頃の小春日和は、この地方での最も忘れ難い、最も心地の好よい時の一つである。

島崎 藤村(1911)『千曲川のスケッチ』より

小春日和という言葉が当てはまる季節となりました。

学校正門からのスロープを下り、永山駅に向かうバス停への小道に紫色の小粒の実がなった枝が顔をのぞかせています。ムラサキシキブかと思いましたが、実の付き方や葉の形から近似種のコムラサキだと分かりました。

ムラサキシキブ *Callicarpa japonica* Thunb.は、中国から日本にかけて自生するクマツヅラ科の落葉低木で、中国名は「紫珠 zǐ zhū」、学名の *Callicarpa japonica* は、ラテン語の「日本の美しい果実」という意味です。江戸時代初期頃までミムラサキやタマムラサキと呼ばれていたそうですが、その美しさから『源氏物語』に因んでムラサキシキブという名になったと伝えられています。



ムラサキシキブには、変異が非常に多く、その一つが園芸種に良く使われるコムラサキ *Callicarpa dichotoma* で、他にも白い実をつけるシロシキブ（またはコシキブ）*Callicarpa japonica f. albibacca* という種類もあります。私の通勤路である橋本駅近くの交差点にシロシキブが稔っているのを見つけ、歩みを止めて思わず写真を撮りました。シロシキブという名は、平安時代の歌人である白式部内侍にあやかった命名だそうです。



色とりどりに美しい秋、心に余裕のほしいものです。皆様も是非歩みを止めて、深まりゆく秋をお楽しみください。